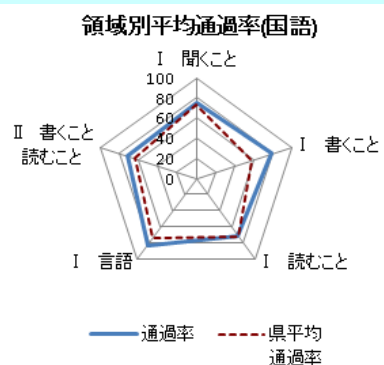
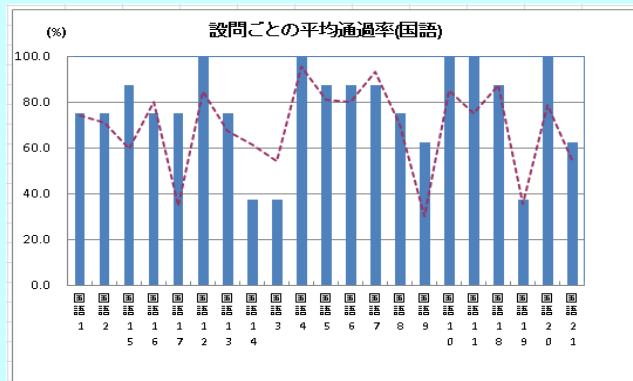


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.4%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

○全体的な傾向 (タイプ I, II の状況, よい領域はどこか) について  
 タイプ I は 78.7%, タイプ II は 71.9% の通過率である。基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられるが、「読むこと」の領域の通過率が 70.8% と一番低く、継続課題である。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)  
 昨年度は、「読むこと」の領域に課題が見られた。特に、説明文の読解における「段落相互の関係」や「要旨の把握」、活用問題における「情報の取り出し」の設問において通過率が低かった。読解の手掛かりを明確にして読み取る指導等を行うことで、「情報の取り出し」については、今年度は 100% の通過率であった。しかし、「読むこと」においては、登場人物の心情の把握の設問は通過率が低く、継続課題である。

### 重点課題

#### 【課題 1】

「読むこと」において、登場人物の心情把握の問題が 37.5% の通過率に留まる。文章の展開に即して、的確にとらえることが課題である。また、条件に沿って記述することができていない誤答が多い。

#### 【課題 2】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、事象や行為などを表す語句を文章の中で適切に選択する問題の通過率が 37.5% に留まる。語彙の不足が課題である。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題 1】

読みの観点を明確にし、接続語や対比関係などに着目させて、文章の展開に即して読み取ることを継続する。また、机間指導で各自の状況を把握して支援するとともに、互いの読み取りを交流する中で読みの着眼点を確認したり、読み取った内容の表現方法を身に付けたりできるよう、指導を工夫する。

#### 【課題 2】

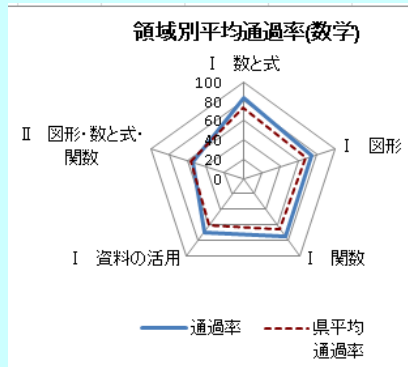
現在行っている毎時間の辞書の活用に加え、新聞の活用や関連教材の紹介等によって新しい語句に触れる機会を増やし、使える言葉を増やしていく指導を継続する。また、新たな語句に出会った際に対義語や類義語なども合わせて習得するように指導を工夫する。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間試験		1・2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値		45.0%		55.0%	60.0%		70.0%
実施後数値							

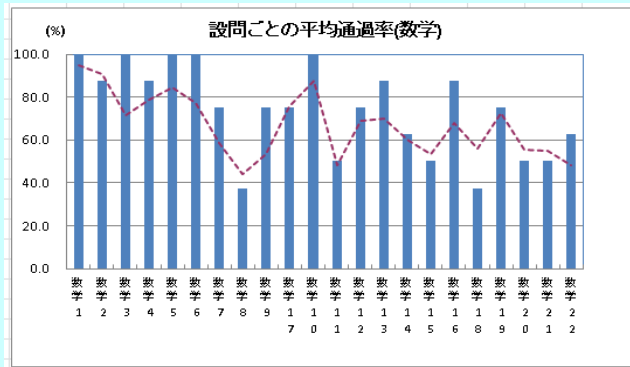
【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査	1年生 H28 「基礎・基本」	1・2年生学年末試験
目標値				50.0%	60.0%	65.0%	70.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 73.9%, 県 66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

○全体的な傾向 (タイプ I, II の状況, よい領域はどこか) について  
 タイプ I は 79.4%, タイプ II は 55.0% の通過率となっている。この結果から, 基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。しかし, 資料の活用の領域の通過率が低い。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)  
 昨年度は, 調査結果を比較して, 正しく判断した理由を説明する問題に課題が見られた。そこで, 調査結果を比較し, 図や表の特徴を捉えて判断した理由について数学的な表現を用いて述べることに取り組んだ。さらに, 支援が必要な生徒には, テンプレートを用いて指導した。その結果, 昨年度の説明する問題の通過率 41.7% に対し, 今年度は説明する問題 2 問のそれぞれの通過率が 50.0% と 62.5% となった。

## 重点課題

### 【課題 1】

自然数の意味, 円錐と円柱の体積の関係, 最頻値の意味と数量や図形などについての知識・理解の通過率がそれぞれ 37.5%, 50.0%, 50.0% と低い傾向にある。

### 【課題 2】

作図の利用の通過率が 37.5% である。学習した知識・技能を実生活に活かす活用問題に課題が見られる。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題 1】

数量や図形の関係の基礎的な知識を定着させるために, 具体物の操作を取り入れた学習活動を仕組む。また, 授業の始めには, フラッシュカードを用いて知識の定着を図る。

### 【課題 2】

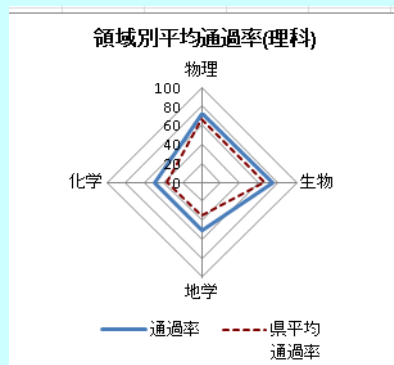
基礎的・基本的な知識・技能についてドリル学習を通して確実に定着させたい一方で, 実生活に活かす活用問題に取り組ませる。特に, 実生活に活かす場面を生徒自身が発見できるように, 学校行事や地域の行事を使った課題を設定する。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査	2年生 H28 「基礎・基本」 1年生 H29 「基礎・基本」	1年生学年末試験
目標値				55.0%	60.0%	65.0%	70.0%
実施後数値							

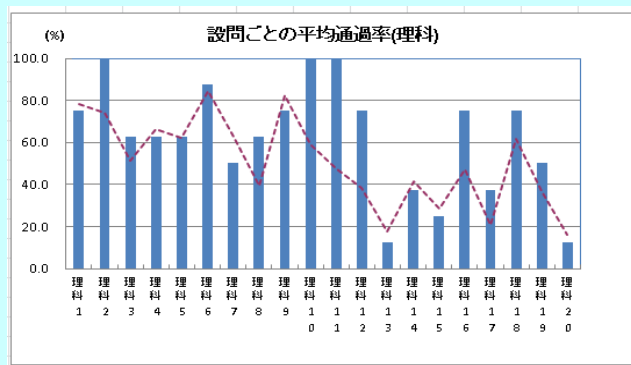
【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間試験		1・2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値		40.0%		45.0%	50.0%		55.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 61.9%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

○全体的な傾向 (タイプ I, II の状況, よい領域はどこか) について  
 タイプ I は 69.8%, タイプ II は 50.0% の通過率となっている。生物領域は全体で 75.0% と概ね定着している。また、「仮説に基づいた実験結果の予想(通番 18)」の通過率が 75.0%, 「仮説を検証するための条件制御(通番 5)」の通過率が 62.5% であり, 実験の計画を立てる基本的な力は概ね身に付いていると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)  
 力の大きさを作図で表す問題は, 昨年度の 8.3% から 62.5% に増加し, 概ね定着している。しかし, 化学領域の通過率は昨年度と同じく 50.0% と低かった。特に, 条件を変えた場合にグラフがどのように変化するかを答える問題の正答率が低かった。グラフの書き方を習得させるだけでなく, グラフが表す意味を読み取り, 応用する学習を行う必要がある。

## 重点課題

### 【課題 1】

メスシリンダーを用いて物質の体積を読み取る問題で, メスシリンダーの目盛を正しく読み取れていない生徒が 25.0% おり, 物質の体積を計算して求めることができない生徒が 37.5% いる。(通過率 37.5%)

### 【課題 2】

岩石を特徴から分類する問題で, 岩石の種類を正解である砂岩と答えられなかった生徒が 62.5% おり, 砂岩に分類するために必要な情報を正しく選択できない生徒が 25.0% いた。(通過率 12.5%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題 1】

繰り返し指導することで, メスシリンダーの正しい使い方や目盛りを 1/10 まで読み取ることを徹底する。体積を測定する実験では, 単に実験方法を指示するのではなく, どうすればメスシリンダーを使って物質の体積を測定することができるのかを考えさせて実験を行う。

### 【課題 2】

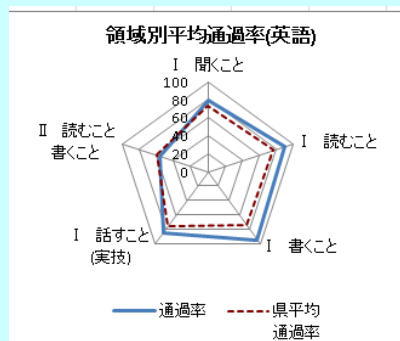
岩石の種類ごとの名称と特徴をまとめた後に, 実際に岩石を分類する活動を行う。その際, 岩石の名称だけでなく, そのように分類した理由について根拠をもって説明させる。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験			1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値		45.0%			55.0%		60.0%
実施後数値							

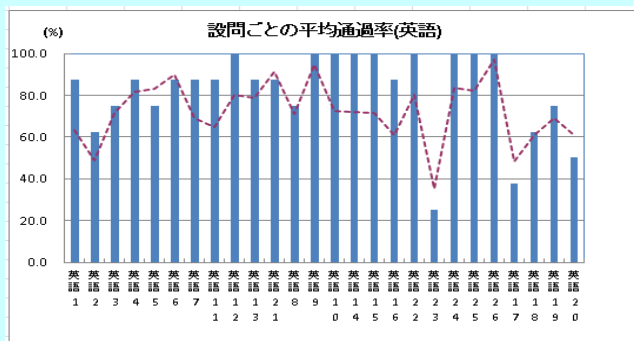
【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値				50.0%	55.0%		60.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 82.2%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



## 本年度の結果について

- 全体的な傾向 (タイプ I, II の状況, よい領域はどこか) について  
 タイプ I の「読むこと」の「適切な文を用いた会話文の組み立て」の通過率が 100.0%, 「書くこと」の「基本的な文の決まりを理解した作文」が 100.0%である。一方, タイプ II の「読むこと, 書くこと」の問題では「通過率の情報を基にした概要や要点の理解」が 75.0%であった。
- 昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)  
 まとまりのある英文を読む際, 読み取りのポイントを確認してから読ませた。また, 疑問詞のある英文は繰り返しインプットし, ペア活動の中で使えるように取り組んだ。読み取った内容を相手に伝える時に, どうしてそのように考えるのか, 理由をつけて説明できるようにしたい。

## 重点課題

### 【課題 1】

タイプ I 「聞くこと」の領域で, "Can I use it?" の依頼の問いかけに対して, "Sure"と適切に応じた生徒は 62.5%だった。37.5%の生徒が "Yes, I can"と解答している。

### 【課題 2】

タイプ II 「読むこと書くこと」の領域で, 前後の内容を読み取り, 根拠となる英文の読み取りに課題がある。(50.0%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題 1】

ペア活動を多く取り入れ, 場面に応じた対話ができるように All in English で授業を進める。また, 生徒が使える英語表現を多く紹介し, 生徒が多くの英語を使う授業を仕組む。その中で, 相手の意見に必ず反応するようにさせ, 相槌や賛成または反対など自分の意見や考えを述べる活動を多く取り入れる。

### 【課題 2】

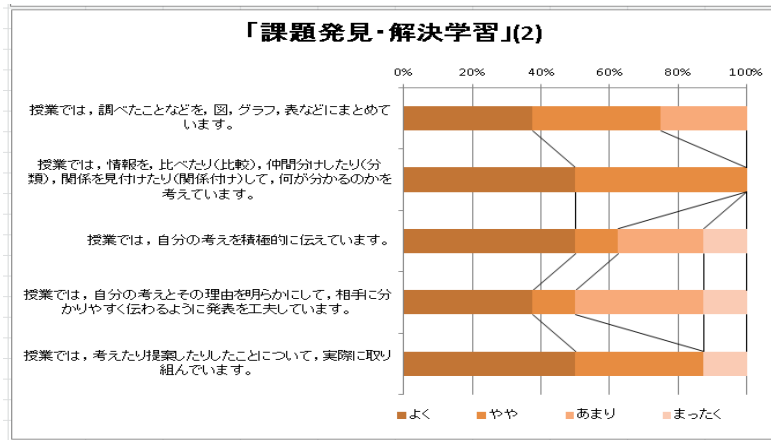
生徒に考えさせる発問を工夫する Yes, No Question だけでなく, 5W1Hの疑問詞を使った質問をし, なぜそう考えるのか理由を述べさせる。また, 自分の考えをできるだけ多く表現したくなるような話題を提示し, 分からないことは辞書で調べさせて表現させる。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間試験		1・2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%	65.0%		70.0%
実施後数値							

【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		1・2年生中間試験		1・2年生期末試験	1・2年生市学力到達度検査		1・2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%	65.0%		70.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

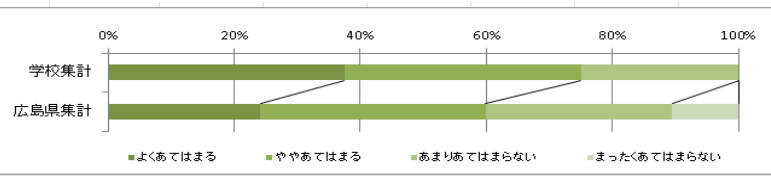
(1) 生活・学習



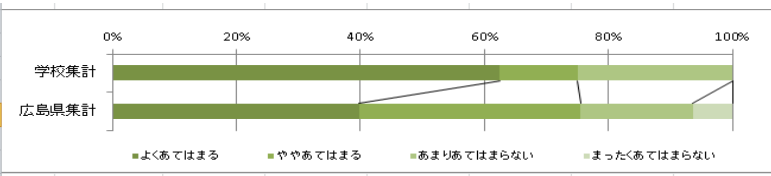
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の否定的回答が50.0%である。	授業の中で、個人思考から集団・全体思考に繋がる発問の工夫やグループ活動を仕組み、考えを深めさせる。また、相手に分かりやすく伝えるためのモデルを例示し、定着を図る。	2	肯定的評価の生徒が85.0%	生徒アンケート	12月		

(2) 教科

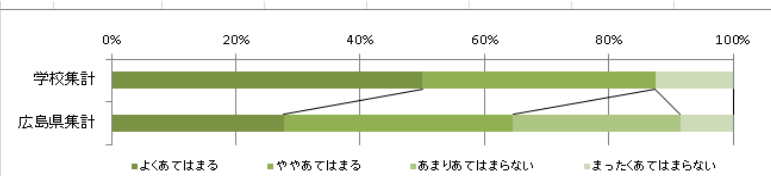
国語の授業の中で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。



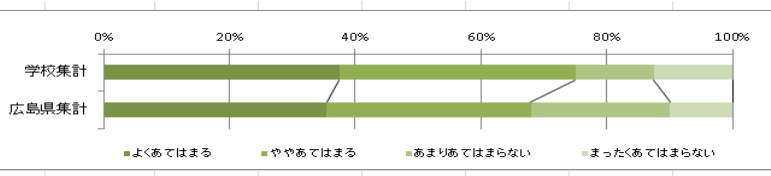
数学の授業では、問題を解くときには、前に習ったことが使えないかいつも考えています。



理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。



英語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるか考えたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	『よくあてはまる』と回答した生徒は37.5%にとどまり、25.0%は『あまりあてはまらない』と回答している。	普段の生活や他の場面で国語で学習したことの有用感を感じられるような課題を設定したり、具体的な活用場面を設定したりする。	2	『よくあてはまる』と回答する割合が75.0%	生徒アンケート	12月		
数学	「数学の授業では、問題を解くときには、前に習ったことが使えないかいつも考えています。」の否定的回答が25.0%であった。	授業の最初に、既習事項の確認を行い、既習事項から発展させて課題を解決するような課題設定の工夫を行う。	2	肯定的評価の生徒が85.0%	生徒アンケート	12月		
理科	『よくあてはまる』と回答した生徒は50.0%にとどまり、12.5%は『あまりあてはまらない』と回答している。	導入時に本時のめあてを確認し、めあて達成のために、その観察や実験にはどんな意味があるのかを考えさせ、観察・実験を行う。	2	『よくあてはまる』と回答する割合が75.0%	生徒アンケート	12月		
英語	『よくあてはまる』と回答した生徒は37.5%にとどまり、12.5%は『まったくあてはまらない』と回答している。	授業中はできるだけ英語での発問や指示、ペアでの会話などの機会を増やし、できるだけ英語を使った授業を行う。	2	『よくあてはまる』と回答する割合が75.0%	生徒アンケート	12月		